

北方領土隣接地域における地域一体となった 啓発促進策の検討に関する有識者会議(第2回)

現地視察報告

実施概要

■実施日

令和7年6月22日(日)-6月23日(月)

■参加者

北方領土隣接地域における地域一体となった啓発促進策の検討に関する
有識者会議 構成員(矢ヶ崎座長、楓構成員、佐々木構成員、本間構成員)

※同行:北海道北方領土対策根室地域本部、(独)北方領土問題対策協会、内閣府

■訪問先

【1日目】

- ・納沙布岬(北方領土視察)
- ・北方館・望郷の家
- ・根室市北方領土資料館
- ・北海道立北方四島交流センター(ニ・ホ・ロ)

【2日目】

- ・別海北方展望塔
- ・北方領土館
- ・標津サーモン科学館
- ・羅臼国後展望塔

北方館・望郷の家

■施設の概要

○北方館(昭和55年8月開館)

- ・ 根室半島最東端・納沙布岬に位置。目の前に北方の島々を望む。北方領土問題の発生の状況や歴史的経緯をわかりやすく解説した資料を展示。

○望郷の家(昭和47年4月開設)

- ・ 北方領土の島々を追われた元島民の心の拠り所として開設。戦前の島民の生活関連資料や島々における街並みや住居表示を折り込んだ地図などを展示。

出典: 北方領土隣接地域における地域一体となった啓発促進策の検討に関する
有識者会議(第1回) 資料6・根室市説明資料
(独)北方領土問題対策協会「北方館パンフレット」

■説明の概要

- ・ 北方四島と北方領土隣接地域との位置関係
- ・ 北方四島在住のロシア人による根室への来訪状況
- ・ 北方海域の海産物
- ・ 終戦直後のソ連占領下における人々の暮らし
- ・ 北方領土の返還実現に向けた交渉の状況と展望

■所感

- ・ わずか3.7kmの距離にある貝殻島を始め北方領土を間近に望みながら、北方領土の地理や北方領土問題の歴史的経緯、元島民の望郷の思いなど、北方領土及び北方領土問題の基本的な知識を網羅的に得られる。



▲四島のかけ橋視察



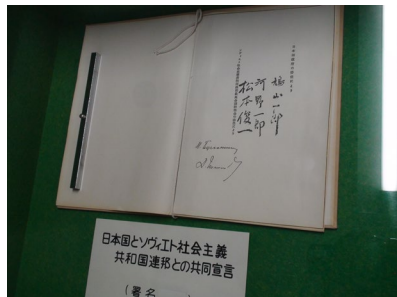
▲納沙布岬から北方領土を視察



▲北方館1階にて、北方領土の現状などについて説明を受ける様子



▲望郷の家2階にて、北方四島周辺の地理について説明を受ける様子



▲北方館2階に展示された北方領土に関する歴史的資料(左写真:日ソ)



▲望郷の家2階にて、北方海域の海産物について説明を受ける様子



▲望郷の家1階にて、各島の住居表示を記した地図について説明を受ける様子

根室市北方領土資料館

■施設の概要

(旧根室市観光物産センターをリニューアル,平成28年12月開設)

- ・ 北方領土の返還を願う人々の想いでつくる資料館。
- ・ 「戦前の北方領土の生活」にスポットを当て、島での「衣・食・住」を中心とした資料を展示。

出典:北方領土隣接地域における地域一体となった啓発促進策の検討に関する
有識者会議(第1回) 資料6・根室市説明資料
根室市北方領土資料館「根室市北方領土資料館パンフレット」

■説明の概要

- ・ 根室国後間海底電信線陸揚施設の紹介、根室国後間海底電信線(実物)の展示
- ・ 戦前の北方領土で撮影された映画の紹介パネル
- ・ 終戦直後のソ連占領下で撮影された北方領土の写真の展示
- ・ 北方領土の元島民から提供された、当時の四島の様子を記録した写真・画像、四島での生活道具の展示
- ・ 来訪者がメッセージを残せる掲示板の設置

■所感

- ・ 戦前の北方領土での暮らしを、当時の写真・映像・実物資料などから知ることができる。
- ・ 元島民による寄贈品など、元島民にゆかりのある資料が多数展示されている。



▲「根室国後間海底電信線陸揚施設(陸揚庫)」について説明を受ける様子



▲施設1階に展示された「色丹神社」のレプリカ(鳥居はナガスクジラの下顎の骨)について説明を受ける様子



▲根室国後間海底電信線の実物と説明パネルの前に説明を受ける様子



▲施設2階に展示された戦前の北方四島の様子を伝える説明パネルの前に説明を受ける様子



▲鈴木咲子さんを始めとする元島民の証言をもとに、当時の北方四島の風景を描いた絵地図について説明を受ける様子



▲施設2階にて、国後島で撮影された映画『生命の冠』(1936)について説明を受ける様子



▲映画「ジョバンニの島」と、主人公のモデルとなった元島民の得能宏さんの紹介パネル



▲元島民の福澤英雄さん寄贈の、当時北方四島で使用していた生活道具(蓄音機やおひつなど)

北海道立北方四島交流センター(二・ホ・ロ)

■施設の概要(平成12年2月7日オープン)

- ・国内外の方々に北方領土問題について理解を深めていただくための啓発施設として、また北方四島に居住するロシア人の方々と交流を深める拠点施設として、双方の機能を兼ね備えている。
- ・愛称「二・ホ・ロ」は、日本(二)とロシア(ロ)をつなぐ北海道(ホ)の交流拠点施設、の意味。

出典:北海道立北方四島交流センター「施設概要(令和7年(2025年)6月版)」
北海道立北方四島交流センター「北海道立北方四島交流センターパンフレット」

■説明の概要

- ・1階展示室では、北方四島の歴史、戦前の四島の暮らし、四島との交流、四島のいまを、資料や映像機器などで紹介。
- ・2階の北方資料館展示室では、北方領土に関する歴史的な写真、資料、物品等、貴重な資料を多数展示。
- ・展示室のほか、交流ホール、視聴覚室等を備えている。北方領土の啓発事業や四島交流事業に使われていない時は、地域のコミュニティにも貸し出している。
- ・北方領土問題関係書籍をエトピリカ文庫として整備。

■所感

- ・実物資料をはじめ展示資料が充実。視聴覚機器も多数。
- ・施設の機能が多角的。展示室以外の設備も充実。



▲施設1階の展示室で施設概要や展示内容について説明を受ける様子



▲実物の根室国後間海底電信線による通信を体験できる展示の前で説明を受ける様子



▲元島民の証言を記録したビデオ映像について説明を受ける様子



▲ロシアの文化を紹介するコーナーについて説明を受ける様子



▲施設1階のエトピリカ文庫



▲施設2階の視聴覚室



▲施設2階の展示室で北方領土に関する歴史的な資料について説明を受ける様子



▲ラクスマンが根室に滞在していた間、日本に初めてサウナ、アイススケート、紅茶を伝えたと言われる説明を受ける様子4

別海北方展望塔

■施設の概要(昭和57年10月開館)

- 北方領土返還要求運動の正しい理解と国民世論の高揚のために建設。
- 厳寒期に発生する別海町の風物詩「四角い太陽」のスポットとして知られる白鳥台に立地。
- 平成23年に道の駅に指定(道の駅おだいとう)。

出典:別海町「別海北方展望塔パンフレット」

■説明の概要

- 1階がレストラン・売店、2階が北方領土の展示室、3階が展望室。
- 道の駅としてリニューアル後、来館者数が増加。野付半島での野鳥観察などを目的に、国内外から観光客が来訪。
- 道の駅は地域おこし協力隊が運営。地元産の食材にこだわったメニューの提供、別海町の特産品の販売など。

■所感

- 北方領土啓発施設と観光施設の双方の機能を併せ持っている。道の駅に立ち寄った人が、2階展示室・3階展望室に足を運び北方領土について学ぶ。
- 道の駅は地域おこし協力隊により別海町の観光資源を活かした運営が行われている。



▲施設1階のホールにて、施設概要について説明を受ける様子



▲施設2階にて、北方領土の解説パネルについて説明を受ける様子



▲施設2階に設置された、戦前の北方領土の暮らしや自然などを追体験できるVRコンテンツを体験する様子



▲施設3階にて、北方四島交流等事業についての展示を視察する様子



▲施設3階の展望室から、野付半島越しに16km先の国後島を望む



▲施設1階のレストランにて、地域おこし協力隊の方から活動状況や地域の観光資源を活かした取組について説明を受ける様子5



▲北方領土返還を求める「四島への道叫び」の像。▲道の駅おだいとう内の、別海町紹介コーナー
山形市の実業家・鈴木傳六氏が建立し寄贈。



北方領土館

■施設の概要(昭和54年12月オープン)

- ・ 標津町からわずか24km先の国後島を間近に望みながら、北方領土の歴史が学べる資料館。

■説明の概要

- ・ 1階には、昭和20年当時の北方四島の暮らしを記録した写真、ビザなし交流の参加者が撮影した北方四島の写真を展示。
- ・ 2階には、北方領土と根室管内位置模型図、元島民が描いた国後島集落詳細図、北方領土の歴史解説パネルなどを展示。
- ・ 「北方領土を目で見る運動」による北方領土学習プログラムを取り入れた修学旅行の受け入れについて。修学旅行生に対して、2階の展示フロアを利用して元島民による講話を行っている。

■所感

- ・ 写真資料が充実。昭和20年当時の北方四島での人々の暮らし、ビザなし交流を通じた標津町民と四島在住ロシア人との交流の様子を、貴重な写真資料から知ることができる。
- ・ 標津町在住の元島民による語り部活動の拠点となっている。



▲施設入口ある、北方四島の各島の居住地図を手に取る様子



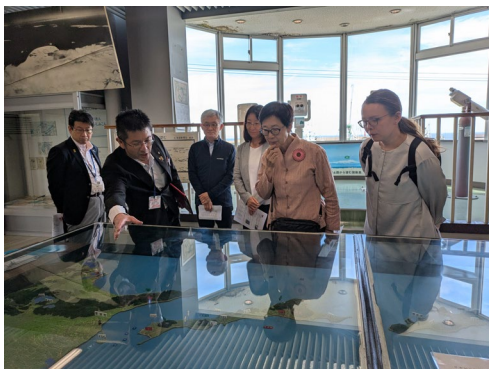
▲昭和20年当時の北方四島の暮らしを記録した写真には、色丹神社の写真も



▲施設1階にて、施設の概要について説明を受ける様子



▲ますやのりなどの漁業の様子、運動会の様子など、当時の北方四島での人々の暮らしを記録した写真



▲標津町と国後島の地理関係について、ジオラマを使って説明を受ける様子



▲施設1階には、ビザなし交流の様子を撮影した写真が展示されている



▲元島民が描いた国後島集落詳細図には、集落の名前や、一軒ごとに名字が記載されている



▲元島民の福澤英雄さんが撮影したビザなし交流の様子や、お手製のパネルなどが展示されている

標津サーモン科学館

■施設の概要(平成3年9月オープン)

- 北海道内でも有数のサケの水揚げ量を誇る「サケの町しべつ」の「サケの水族館」。サケ科魚類と標津周辺に暮らす魚たちを展示。日本遺産「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～】についても紹介。
- 水族館としての機能のほか、鮭の生態や文化を紹介する博物館の機能も併せ持つ。

出典: 標津サーモン科学館HP

鮭の聖地の物語 根室海峡1万年の道程HP

■説明の概要

- サケの仲間約30種を展示、サケ科魚類展示数日本一。
- サケ科魚類を展示するほか、チョウザメに指を食われる体験ができる。
- 日本遺産「鮭の聖地」エキシビジョンルームでは、根室海峡沿岸で一万年前から営まれてきた人々の暮らしと鮭との関わりを、歴史的・文化的な視点から展示。

■所感

- 標津町を象徴するサケに焦点を当て、サケの生態から文化まで幅広く学び体験することができる。
- チョウザメに触れるアクティビティ、サケに関する各種データの展示など、展示内容・手法が多角的で充実。
- 展望室からは国後島を望むことができる。



▲「サケの生態から文化まで」をコンセプトに掲げ、サケの栄養成分や食文化などについても展示



▲展望室では、地上30mの高さから国後島をはじめ雄大な景色を360度望むことができる



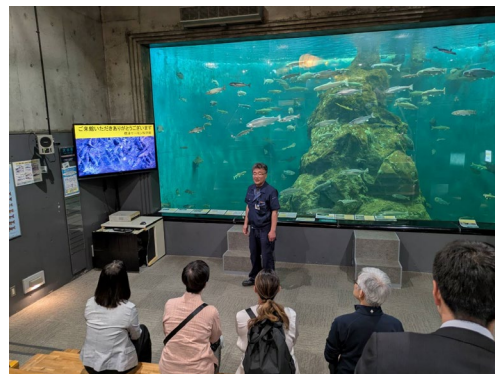
▲屋外の生簀にて、大学との連携で研究が行われているチョウザメについて説明を受ける様子



▲魚道水槽は、季節ごとに展示内容が変わり、時期により遡上の様子や産卵行動を観察することもできる。



▲日本遺産「鮭の聖地」エキシビジョンルームにて、標津番屋屏風について説明を受ける様子



▲海水大水槽にて、施設概要や展示内容、サケの種類や生態などについて説明を受ける様子



▲チョウザメには歯がない特徴を生かし、チョウザメの口に指を入れるアクティビティを体験する様子



▲松浦武四郎が作成した道東／北方四島の地図の前で、根室海峡沿岸の地形などについて説明を受ける様子

羅臼国後展望塔

■施設の概要(平成12年2月開館)

- 海拔167mの高台にある羅臼国後展望塔から、わずか25kmしか離れていない国後島の雄大な姿が一望できる。
- 平成26年度には新たに研修室を増築し、羅臼町の北方領土啓発施設の拠点となっている。

出典:(独)北方領土問題対策協会、羅臼町「羅臼国後展望塔パンフレット」

■説明の概要

- 施設内には、北方領土問題を分かりやすく解説した展示コーナーなどを設置。北方領土問題の歴史的経緯などを学ぶことができる。
- 「北方領土を目で見る運動」による修学旅行の受け入れについて。羅臼町の基幹産業である漁業に触れながら、北方領土問題への理解を深めてもらう工夫。
- 羅臼町での元島民やその後継者による語り部活動の状況について。

■所感

- 高台に立地し、屋上から国後島の雄大な姿を望むことができる。知床羅臼の雄大な自然を間近に感じられる。
- 元島民の高齢化が進む中、一世の実体験に基づく貴重な語りを映像に記録し、後世に継承する取組を実施。



▲羅臼国後展望塔屋上に設置された、北方領土方向指示版



▲展望室からも国後島を望むことができる



▲羅臼国後展望塔屋上から、国後島や羅臼漁港を望む



▲元島民の高岡唯一氏による語り部映像を電子データで記録し、公開する取組について説明を受ける様子



▲羅臼の町並みを望みながら、羅臼沖の地形、豊かな自然、羅臼町の漁業や観光の取組などについて説明を受ける様子



▲羅臼国後展望塔屋上にて、施設概要や来館者数について説明を受ける様子



▲研修室にて、説明を受ける様子
研修室では、北方領土学習や北方領土啓発事業を実施



▲北方領土学習コーナーの展示パネルを視察する様子